

2006年2月1日

室蘭市長

新 宮 正 志 様

北海道平和運動フォーラム

代表 杉山さかえ

代表 江本 秀春

代表 小林 雪夫

申 入 書

日頃から住民生活の向上に向けご奮闘されていることに対し心より敬意を表します。

さて、今回、横須賀を母港とする第7艦隊旗艦「ブルーリッジ」及び「チャンセラーズビル」が室蘭港へ入港する旨、米国から打診があり、室蘭市としては、寄港中止を要請したにもかかわらず、最終的には受け入れざるを得なかった経過をマスコミ報道で知りました。同時に、「歓迎行事は行わない」との態度を内外に表明するとともに、アメリカ総領事に対しては市民の安全を配慮するよう申し入れを行ったとの報道等を通じて、室蘭市としての毅然たる姿勢は十分理解しているつもりです。私たちは、このような米国による強引な寄港、さらには、米イージス艦寄港の常態化のための地ならしと思われる寄港には激しい憤りを感じています。また、港湾を抱える全国の自治体が室蘭市の動きを注視していると思います。

そこで、次の点について事実経過・見解をいただきたいと思います。

記

- 1 室蘭市は、一部報道にあるように「日米地位協定5条による寄港であり、拒否できない」との判断をしたのでしょうか。あるいは、米国や日本政府から、「日米地位協定に基づく寄港である」旨の要請があったのでしょうか。
- 2 私たちの理解では、「日米地位協定5条」には、通告だけで自由に入港できるとの定めはなく、入港を許可するか否かの判断はあくまでも港湾管理権を持つ室蘭市長であると思いますが、いかがでしょうか。
- 3 今回の入港許可の撤回を求めます。それが困難な場合は、少なくとも、今回の入港許可を今後の前例とはしない旨、内外に明らかにするよう求めます。

以 上